

畑地かんがい施設の利用状況

～昨夏の記録的少雨において効果を発揮～



畑地かんがい施設の整備状況

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—

○ 北海道開発局では、**高品質で安定した農業生産を支え、北海道農業の更なる競争力強化**を図るため、畑作物や野菜類などの生産に必要な用水を供給する『**畑地かんがい施設**』の整備を推進しています。

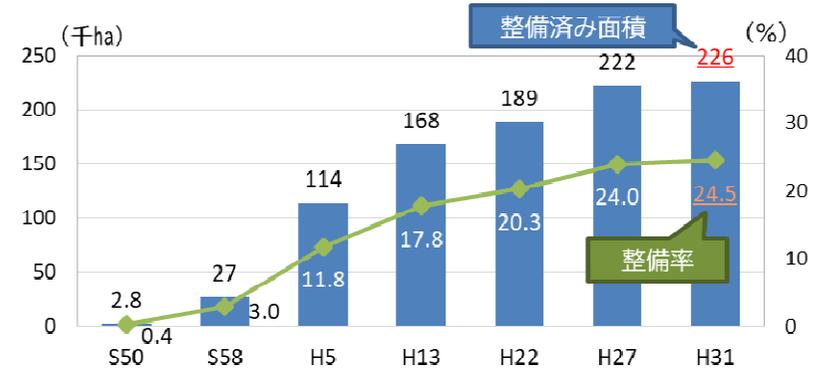
■ 「畑地かんがい」とは

畑地かんがいは、**畑作物や野菜類などの生育に必要な水分を補給するため、畑に散水を行うこと。**（湿潤かんがいとも言う）

■ 畑地かんがい施設の整備内容の例

	取水施設	幹線用水路	ファームポンド
基幹施設 (主として国営事業で整備)	 ダム	 管水路の施工状況	 幹線用水路の末端に位置し、用水の需給調整を行う
末端施設 (主として道営事業等で整備)	 ほ場給水栓	 リールマシン 水圧によってホースを巻き取り、散水機を自走させる	 スプリンクラー

■ 畑地かんがい施設の整備面積・整備率の推移（北海道）



出典：北海道開発局調べ（各年3月末時点の値）

注：肥培かんがい（かんがい用水と家畜ふん尿を混合し、有機質肥料として牧草畑に散布するかんがい方式）を含む

■ 畑地かんがい施設の整備を実施中・着手予定の地区



注：畑主体の地区を記載

記録的少雨において効果を発揮した畑地かんがい

- 令和3年7月の降水量は平年比23%にとどまる記録的な少雨となり、農作物の干ばつ被害が生じやすい状況でした。
- その中で、国営土地改良事業により整備された畑地かんがい施設と用水の活用により、道内の各地で農作物の干ばつ被害を最小限に抑え、高い品質の農産物が収穫されました。

令和3年7月の降雨の状況

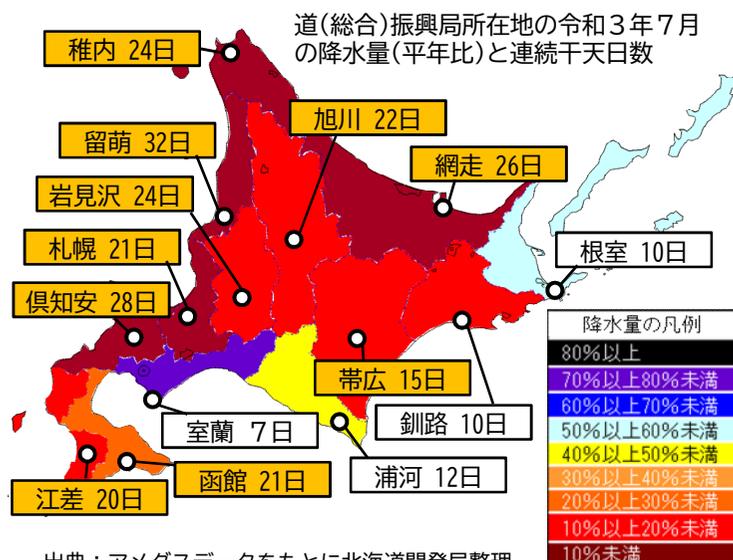
1946年に統計が開始されて以降1位を記録。

令和3年7月の降水量（平年比） 単位：%

	月平均	上旬	中旬	下旬
北海道平均	23	62	5	7

出典：札幌管区気象台資料

連続干天日数（連続して降雨の無い日数）が15日以上の地点が多く、道内の広い範囲で農作物の干ばつ被害が生じやすい状況。



出典：アメダスデータをもとに北海道開発局整理
注：連続干天日数は、地点によっては6月・8月にまたがる

畑地かんがいの実施状況と効果



ブロッコリーへのかん水 (赤井川村)



たまねぎへのかん水 (富良野市)



ばれいしょへのかん水 (芦別市)

【オホーツク地方の事例】畑地かんがいが未整備のほ場では、**たまねぎの生育不良が見られた。**



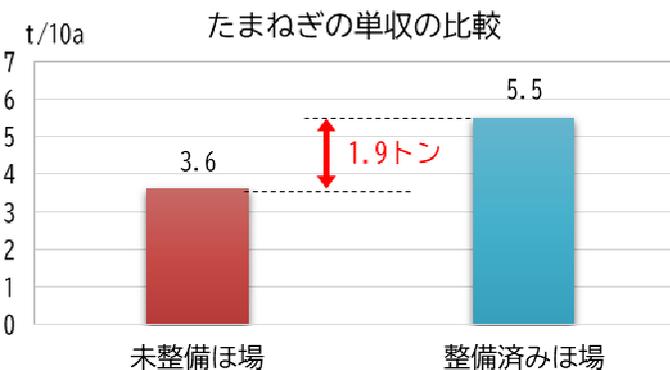
整備済みほ場のたまねぎ



未整備ほ場のたまねぎ

出典：網走開発建設部調べ（北見市の事例）

【上川地方の事例】畑地かんがいの有無により、**たまねぎの単収に約1.9トンの差が生じた。**



出典：旭川開発建設部調べ（美瑛町の事例）

(参考)全道各地で効果を発揮した畑地かんがいの様子



倶知安町:たまねぎ



滝川市:トマト



美瑛町:たまねぎ



北見市:たまねぎ



小清水町:てんさい



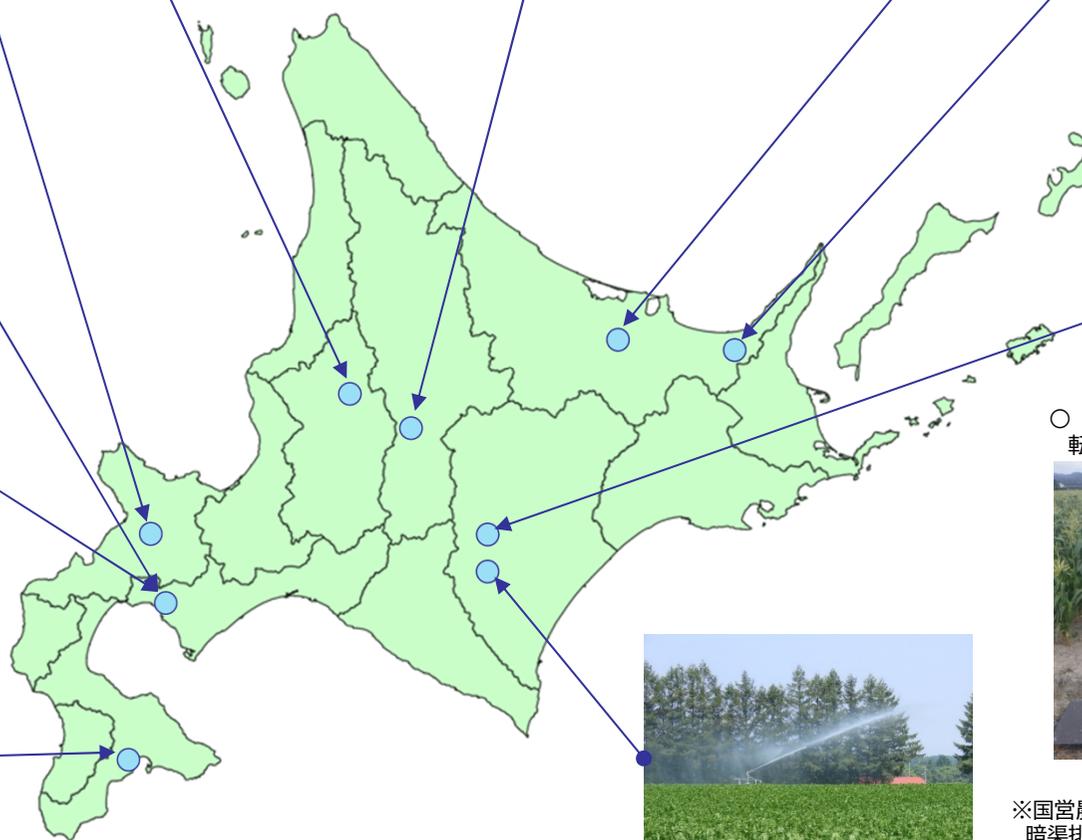
洞爺湖町:キャバツ



洞爺湖町:セルリー



北斗市:きゅうり



音更町:ばれいしょ

○ このほか、大区画に整備された水田でも、
転作作物の「地下かんがい」が行われました。



長沼町:スイートコーン

※国営農地再編整備事業(南長沼地区)で整備した
暗渠排水(集中管理孔)を活用した地下かんがい



芽室町:てんさい